YMCA

YMCA
地球市民育成プロジェクト

2017年度研修生募集

申込締切／2017年6月12日（月）

GLOBAL CITIZENSHIP PROJECT 2017

主催：公益財団法人 日本YMCA同盟

YMCAの「地球市民育成プロジェクト」に参加して、あなたも、地球市民（=Global Citizen）を目指しませんか？

地球市民とは

2009年よりスタートした
このプロジェクトは、

世界の課題に敏感に反応し、行動を起こすユースの育成を目的としています。

YMCA 地球市民育成プロジェクト参加 › YMCA 地球市民育成報告会、認証式

年間カリキュラム修了者には、「YMCA地球市民」の認証を授与します。

地域・世界での幅広い活躍

認証後、希望者には、YMCAのグローバルなネットワークを活用し、世界各地での研修プログラムや国際会議、国際機関やNGOでのインターンシップ等の機会が提供されます。

私たちは様々な課題を抱える世界に暮らしています。

―「環境問題」「貧困」「紛争」「広がる格差」―

これら国境を越えて起こる**「地球規模課題=Global Issues」**は、
一人ひとりの様々な機会、将来への希望、時にいのちを奪っています。
その現実を**どう感じますか？**
変えたいと思ったとき、**どんな一歩を踏み出しますか？**

1年間のカリキュラムを通じて、
話し合いを重ねながら、先駆的な取り組みを学び、
社会に働きかける「課題解決のプロセス」を実践していきます。

国内238拠点、世界119の国や地域に広がるYMCAの**グローバルなネットワーク**を活用し、
より良い社会を共に創る力を養います。

English Camp for Global Leadership

YMCAでは中学2年～高校3年生を対象に、英語によるコミュニケーションの楽しさを知ること、そして積極的に世界に目を向け、自ら考え行動するためのプログラムを行っています。（2017年12月26日～29日、定員40名、YMCA東山荘）

2016年度認証式

対象

- おおむね18歳～30歳のもの。留学生可。YMCAで活動経験がある、または関心があるもの。
- 自らが変化を起こす担い手になるために、問題意識をもち、他者との協力や対話を重んじる問題解決のプロセスに賛同するもの。
- 夏期研修に全日程参加でき*1、英語でのコミュニケーション*2に積極的に取り組むもの。
- アジア、世界の多様な文化・社会・経済的背景への理解に努めるもの。
- 所属する大学や専門学校の指導教員、勤務先、またはYMCAの推薦が得られるもの。

＊1 部分参加はご遠慮いただいています。
＊2 夏期研修は原則英語で進められます。（一部、日本語で理解を深める時間を設けています）
TOEIC550点以上を目安としています。不安のある方は事務局へご相談ください。

募集人数 | 30名 書類選考があります

受講費 | 140,000円（税込）* ただし個人負担は4万円です。

＊YMCAユースファンドより一人10万円の支援がなされます。（なお、支援を希望しない場合は、お申し出ください。）また、研修の途中での自己都合でのキャンセルや、書類・レポートが期日通りに提出されない場合などは、支援の対象になりません。ご了承ください。
＊年間を通してのレポート作成及びアクションプラン実行のための助言指導、夏期研修宿泊食費、認証のための諸費用が含まれています。
＊集合研修・認証式につきましては、遠隔地からの参加者については格安旅費実費の半額を上限に旅費補助を行います。

申込締切 | 2017年6月12日（月）申込書必着

夏期研修スケジュール

於：YMCA 東山荘（静岡県御殿場市）
URL：www.ymcajapan.org/tozanso/

8月29日（火）	●開会式 ●オリエンテーション ●グループワーク
8月30日（水）	●ワークショップⅠ ～世界がもし100人の村だったら～ ●集中インプットⅠ ～フィールドワーク学習会～ ●ウェルカム・パーティー
8月31日（木）	●フィールドワーク（終日） 関東圏で活動するNGOや社会課題の現場を訪問。
9月 1日（金）	●フィールドワークふりかえり ●ワークショップⅡ ～社会課題の構造を学び考える～
9月 2日（土）	●ワークショップⅢ ～メディア・リテラシー～ ●集中インプットⅡ ～アクションプラン～ ●富士山麓ネイチャープログラム、フリータイム
9月 3日（日）	●アクションプラン・行動宣言 ●カルチャーナイト
9月 4日（月）	●閉会式

少人数グループ（6～7名）制ですすめます。
YMCAはキリスト教の精神を大切に活動しています。期間中、一日の始まりに「朝の集い」を礼拝形式で行います。
スケジュールは若干変更になることがあります。

本プロジェクトの特色

サポート体制

- 〝Think Globally, Act Locally〟＝地球的視座に立った分析力、地域で実践する行動力を養うため、YMCAの国内外に広がるネットワークと伝統ある青少年育成の手法を活かした年間カリキュラムです。
- 特に、ユースの発想力・発言力を活かし、地域や社会に根ざした取り組みをサポートします。
- 年間の学習カリキュラムのため、大学での単位認定にも対応しています。所属の学部・キャリアセンターに確認の上、事務局までご相談ください。

魅力あるネットワークに触れる

- 開発教育、人道支援、まちづくり、国際貢献など大学やNGOで活躍するリソースパーソンが年間を通して、研修生一人ひとりの問題意識を検証し、アクションプラン・行動宣言への助言指導を行います。
- 夏期研修（宿泊型）では、アジアの大学生に加え、平和構築や教育支援の最前線で働くスタッフと共に学び、生活をします。生涯にわたるネットワークの基礎を築きます。

世界や地域に働きかける人に

- 年間プロジェクト終了後も、YMCAの国際会議、スタディーツアーや各種研修、インターン等の様々な機会をサポートします。
- これまでに180名の認証生を輩出しています。海外留学・インターンシップ・大学院進学、教育機関・NGO等への就職等、幅広い活躍をしています。公的機関、企業からもグローバル人材への注目が集まっています。

YMCA地球市民育成プロジェクトに参加して

半田瑛莉さん
広島YMCAボランティア
2016年度YMCA地球市民認証生

私がプロジェクトに参加したきっかけは、アメリカ留学の際に感じた貧富の差です。あたり前のようにガレージ付きの一軒家に帰る人々がいる一方、寒空の中、観光客に物乞いをするホームレスがたくさんいました。その光景を目の当たりにした時から、貧困に苦しんでいる人をどうしたら救いだすことができるのかを考えるようになりました。

そして帰国して何から始めようかと悩んでいた時、このプロジェクトに出会いました。国内外や規模を問わず、あらゆる社会課題に取り組む若者を育てることが目的のプロジェクトの夏期研修では、自分とは異なる課題に関心を持つ研修生との出会いがありました。1週間ともに過ごし、ワークショップでの学びやディスカッションを重ねるうちに、私は偏見について考えるようになり「どうして偏見が生まれてしまうのか、話す場、学ぶ場を設けること」をテーマにアクションプランを作り、現在活動をしています。

一年のカリキュラムを通じて多くの価値観や考え方に出会うことができました。そこから私が学んだことは相手を知ろうとする姿勢です。どんな考えや意見でもまずは耳を傾け、理解をしようとする努力をしながら、これからも積極的に活動を続けていきたいと考えています。

向平　悟さん
盛岡YMCA
2016年度YMCA地球市民認証生

私はこのプロジェクトに参加し、出会いから生まれる気付きを強く感じました。仲間の研修生からは夏期研修のフィールドワークで訪ねた先々での様々な人との出会いと交流から、自分の中にあった考えが変化・進化していくのを感じました。それらの体験を踏まえて、私はアクションプランのテーマを「子どもたちを取り巻く環境の改善」としました。

取り上げたテーマはプロジェクト参加前より関心を持っていました。土地開発による公園や空き地の減少、安全という理由により公園から遊具がなくなっていく現状、子どもの孤食の増加などに対して、自分には何ができるのかを考えていました。明確な考えやプランが浮かばず悩んでいたときにこのプロジェクトへの参加のお話をいただき、ヒントがたくさん見つかるかのではないかと思い参加を決めました。

夏期研修では全国から集まった他の地域のユースとの交流を通して、これまでの自分の考えがひっくり返されるような感覚になるような人に出会えました。研修生と過ごす6泊7日は私にとって楽しくもあり苦しくもありましたが、そこで出会った仲間と共に過ごした時間により気付くことのできた「新たな自分」というものをもって、今後も前向きに活動を続けていきたいと思います。

YMCA地球市民育成プロジェクトを推薦します!

リソースパーソンより●

世界とつながり、様々な問題を考える きっかけを

田中治彦さん
上智大学総合人間科学部 教授

インターネットの普及やグローバルな経済活動のおかげで私たちは好むと好まざるとに関わらず「世界」とつながって生きています。例えば、毎日のように手にしているケータイの部品は80以上の国や地域から来ていますし、あるいは欧州のユーロ危機が日本の若者の就職にすぐに影響するというのが今日の世界の現状です。

2011年3月11日の東日本大震災以降、持続可能な生き方とはどのようなものか、本当の豊かさとは何か、これまで以上に問われるようになりました。震災復興や原発事故の収束が遅れる一方で、出来事に対する風化現象も出てきました。3.11後の世界にあって私たちはどのようにアクションしたらよいのか考えさせられます。

このプロジェクトは、グローバル化した世界と私たちが何らかの関わりをもつ糸口を見つけて、世界の問題を自分の足許から少しでも解決できる力を身につけることを目的としています。また、YMCAがこれまで行ってきた青少年活動、地域福祉、国際交流などの経験を基に作られています。若者自身が無理なく「自分」と「世界」をつなげて考え、アジアに友人をつくり、共に励ましあいながら、それぞれの地域や団体で今後の活動を展開できることが期待されています。

ファシリテーターより●

多様な仲間の声に、新しい視点が つまっている

中村絵乃さん
特定非営利活動法人 開発教育協会/DEAR 事務局長

プロジェクトがスタートした時から、ファシリテーターとして関わっています。一週間の生活を共にする中で、目覚ましく成長する若者たちの感受性や行動力に感動させられています。

地球市民育成プロジェクトは、環境・開発・人権・平和などの地球的諸課題に対して、その背景を考え、自分の生活とのつながりに気づき、身近なことから問題解決に関わる力をつけることをねらいとしています。

プロジェクトでは、日本国内やアジアからの研修生と、課題や問題意識を共有し、ワークショップやフィールドワーク、話し合いを通して、理解を深めていきます。多様な意見を持った仲間と議論し、学んだことを分ちあうことで、新たな視点や方向性も見えてきます。アクションプランをつくり、研修後、各現場で実践をしていくことをめざします。

プロジェクトはあくまでも始まりです。これまでにもたくさんの研修生が自分にとっての「地球市民」を考え、問題解決に向けて行動を始めています。これからの社会をつくり、変えていくのは、みなさんです。一緒に考え、学び、行動しましょう!

2017年度 YMCA 地球市民

年｜間｜ス｜ケ｜ジ｜ュ｜ー｜ル

1 応募

6月12日(月)必着

所定の申込書と、所属学校やYMCAの推薦書を事務局へ提出します。

2 選考

6月中旬～下旬

書類に基づき、選考

3 事前研修（レポート提出）

6月～7月中旬

課題図書による文献を読み、芽生えた問題意識や自分の考えをレポートにまとめます。（レポートには、リソースパーソンによる助言指導が行われます）

4 事前オリエンテーション（東京）

7月29日(土)

通年プロジェクトを共に創る国内研修生の顔合わせ・交流会、YMCAスタッフによる活動紹介、夏期研修に向けた準備会。

5 夏期研修（宿泊型）

8月29日(火)～9月4日(月)

アジア地域のYMCAから約10名のユースも加わり、地球規模の課題を学ぶワークショップ、フィールドワークから互いの学びや気づきを共有していきます。変化を起こすアクションプラン・行動宣言をめざします。（原則、英語）

6 アクションプランにチャレンジ 事後レポート提出

9月～

行動宣言に沿って活動をすすめます。所属学校やYMCAでの報告活動、地域・草の根の活動への積極的な参加、自主企画等、行動を起こして知見やネットワークを広げます。活動報告をレポートにまとめます。

7 報告会、認証授与式（東京）

2018年3月18日(日)

アクションプラン・行動宣言に沿った活動の成果や経験をもちより、報告します。これをもって、年間プロジェクトの修了が認められ、「YMCA地球市民」認証が授与されます。

地域・世界での幅広い活躍

日本YMCA地球市民認証生には、アジア・世界各国で行われる国際会議、トレーニング・プログラム、インターンシップなどの機会が拓けます。

過去の研修生所属大学・学校

国公立（13） 北海道大学、岩手大学、富山大学、宇都宮大学、群馬大学、横浜市立大学、一橋大学、山梨大学、京都大学、大阪大学、和歌山県立医科大学、北九州市立大学、熊本大学

私立（38） 東北学院大学、宮城学院女子大学、独協大学、神田外国語大学、津田塾大学、聖路加国際大学、白百合女子大学、聖心女子大学、明治大学、東京農業大学、上智大学、上智大学短期大学部、中央大学、立教大学、大妻女子大学、清泉女子大学、フェリス女学院大学、金沢星稜大学、金城学院大学、中京大学、名城大学、京都精華大学、京都外国語大学、京都女子大学、大阪女学院大学、関西外国語大学、関西学院大学、甲南大学、近畿大学、吉備国際大学、神戸女学院大学、神戸樟蔭女子学院大学、同志社大学、広島女学院大学、広島文化学園大学、熊本学園大学、長崎純心大学、九州ルーテル学院大学

専門学校（5） 北海道 YMCA 英語・スポーツ専門学校、東京 YMCA にほんご学院、YMCA 健康福祉専門学校（横浜 YMCA）、和歌山 YMCA 国際福祉専門学校、熊本 YMCA 学院

YMCA地球市民育成プロジェクト リソースパーソン

五十音順・敬称略
2017年4月1日現在

淺羽　俊一郎	国連UNHCR（国連難民高等弁務官事務所・日本委員会）協会 元職員（東京YMCA会員）
岩坂　二規	関西学院大学教育学部 教員（学生YMCA顧問・大阪YMCA会員）
大森　佐和	国際基督教大学教養学部 教員（学生YMCA会員・日本YMCA同盟委員）
上條　直美	上智大学グローバルコンサーン研究所（YMCA農村青年塾委員）
澤村　雅史	広島女学院大学国際教養学部 教員（広島YMCA会員）
田中　治彦	上智大学総合人間科学部 教員、開発教育協会／ DEAR 理事
長尾　ひろみ	アジア・太平洋YMCA同盟 副会長（日本YMCA同盟理事）
秋元　みどり	立教女学院短期大学現代コミュニケーション学科 助教（日本YMCA同盟協力者）
名古屋　恒彦	岩手大学教育学部 教員（盛岡YMCA会員）
橋崎（廣瀬）頼子	奈良教育大学学校教育講座 教員（神戸YMCA委員・世界YMCA同盟常務委員）
真崎　克彦	甲南大学マネジメント創造学部 教員（日本YMCA同盟協力者）
松井　ケティ	清泉女子大学文学部地球市民学科 教員（日本YMCA同盟協力者）
村瀬　義史	関西学院大学総合政策学部 教員（学生YMCA会員）
山本　俊正	関西学院大学商学部 教員（日本YMCA同盟委員）
湯本　浩之	宇都宮大学留学生・国際交流センター 教員、開発教育協会／ DEAR 副代表理事

― YMCAとは ―

1844年6月、英国・ロンドンで誕生しました。産業革命の過酷な労働環境で働く青年たちが集まり、語り合い、互いの成長と生活改善を求めて活動を始めました。現在は世界119の国と地域で、5800万人が活動するNGO（非営利組織）です。また、1947年から国連経済社会理事会（ECOSOC）の協議資格を有する団体として、青少年教育、人権、女性の地位向上などの分野で国連や赤十字と協働しています。

日本での働き

すべての人びとの成長を願い、キャンプ、ボランティア活動、国際協力・交流、ウエルネス（心・知性・身体のバランスを大切にしながら行う体育活動・野外活動）、学校、フリースペース、チャイルドケア、平和教育、生涯学習の場などを全国238カ所の拠点を通して提供しています。

YMCA の国際活動の願い・特色

YMCAの国際活動は、世界の国と地域に広がるYMCAによる豊かな出会いを通して、平和をつくりだす人を育てます。そのためにも、まずアジア太平洋地域の歴史をはじめ、近隣地域のさまざまな問題について学び、行動することを大切にします。

地域社会の課題への取組み

私たちが暮らす社会にも多くの課題があります。最近では子どもの貧困、文化や国籍の違う人々への差別、東日本大震災をはじめとする被災地や福島第一原発事故による被災者の方々の暮らしなど、YMCAとしてプログラムやボランティア活動を通してその課題の解決に取り組んでいます。

協　力　特定非営利活動法人 開発教育協会／ DEAR
プロジェクト企画・準備、夏期研修についてご協力をいただいています。

支　援　YMCAユースファンド
ワイズメンズクラブ国際協会東西日本区

主　催　公益財団法人 日本YMCA同盟
HPアドレス：http://www.ymcajapan.org/

事務局　日本YMCA研究所
〒412-0024 静岡県御殿場市東山1052 YMCA東山荘
Tel:0550-83-1133　Fax:0550-83-1138
E-mailアドレス：gcp@japanymca.org